

# 「平成28年度菊池支援学校公開研究会」

～一人一人の教育的ニーズに応える教育過程の創造～

▶  
全体会  
の様子



本校では、平成27年度より新たな教育課程の創造を目指した実践研究に取り組んでおり、その中間報告と位置づけた公開研究会を10月29日（土）に開催しました。県下の特別支援学校、小・中・高校から約200人に御参加いただき、皆様から多くの示唆をいただくことができました。

今回は、研究テーマ設定に至るまでの経緯と、これまでの成果と今後についてご紹介します。

## 取組までの経緯

本校では長年にわたって、日常生活の指導、生活単元学習、作業学習など各教科等を合わせた指導が中核でした。合わせた指導を中心とした教育課程の中で、生活上・学習上の課題解決に向けた活動に取り組み、各教科及び自立活動の指導内容を学習するという構図でしたが、こうした取組が

長期化する間に、左図のような課題が指摘されるようになっていました。

こうした状況に至った背景には、教育課程を編成する基本的な考え方や原則に対する職員の意識が希薄化していたことが大きな要因ではないかと考え、指摘された課題に対する取組を通して、本校の教育課程を、児童生徒一人一人の教育的ニーズに合わせてどのように変えればよいかを組織的に検討していくことになりました。

課題①については、「各教科等を合わせて、何を目標に、何を指導内容とするのか」についての整理が必要であると考え、学習指導要領を根拠とした授業づくりを進めること、課題②については、一人一人の教育的ニーズの実現を可能にするために、どのような授業を用意すればよいかを第一に考えた授業づくり（PDCAサイクル）の在り方を整理することを実践研究の柱に据え、「授業実践を充実させながら、かつ教育課程を組織的に効率よく創造するためにはどうすればよいか」というテーマで、職員の研究に対する共通理解を図りました。

1 取組までの経緯

「運動の教育」をテーマとした公開研究会 KIKUCHI 3016

**課題①**

各教科等を合わせた指導にもかかわらず、どの教科等を合わせたのが曖昧なまま、季節の催しや行事等の活動を単元に行っている場合が多く、「**進級・進学しても、毎年同じような単元を行っている**」「**活動内容がパターン化している**」ケースが散見された

→各教科の目標・内容を関連づけた指導及び評価の在り方が曖昧になっていた

1 取組までの経緯

「運動の教育」をテーマとした公開研究会 KIKUCHI 3016

**課題②**

本校の授業づくりは、**授業を計画する手続が明確になっておらず**、授業の目標設定の仕方や学習グループ編制手続き、具体的な指導方法や指導技法などを深める機会が持ちにくく、**担当者の裁量**によるところが大きかった

→「一人一人の児童生徒の実態からつきたい力を想定した授業」というよりは、活動が先にあるパターン化された授業が多かった

## これまでの取組

### (1) 平成27年度（ベース研究Ⅰ）

- ① 特別支援学校学習指導要領（以下、学習指導要領）の内容を一覧表に整理した各教科と自立活動の「指導内容表」を活用しながら、各領域の指導状況を大まかに把握。
- ② 個別の指導計画及び学習指導案の様式を改訂し、学習指導要領とのつながりを明確化。
- ③ 指導内容表、個別の指導計画、学習指導案といったツールを用いながら、教育的ニーズを第一義として取り扱う授業づくりプロセスの在り方を模索。

### (2) 平成28年度（ベース研究Ⅱ）

- ① 指導内容表について、各教科の系統性及び観点を意識できるように、内容表の様式を見直し。
- ② 学習指導案について、児童生徒一人一人の各教科、自立活動における教育的ニーズを明らかにするための様式「Kシート」を中心に据え、大幅に様式を変更。
- ③ 27年度の反省をもとに、各学部で授業づくりのプロセスを再整備。
- ④ 教務部と連携した次年度の教育課程検討に向けた職員アンケートの実施、各学部の実践研究経過（主に授業評価に関する部分）のフィードバック。

（※29年度はベース研究Ⅲと位置付け、上記内容に加え「目標設定と評価」を加える予定）

5 児童生徒一人一人の指導内容・学習指導・手立て・評価（※Kシート）  
【 年 級 ○○ 年 級 】

※1人でもできる工夫を盛り込み、「一人でもできた」という目標を掲げながら、意図的に作業学習に取り組むことができる。

指導内容	学習目標	手立て	評価
<b>国語（小学部）</b> 読解・表現 ・教科や発達段階に応じて、指導計画に載せられることが出来る。 ・（国語・表現） ・教科や発達段階に応じて、指導計画に載せられることが出来る。 ・（国語・表現）	・1人でもできる工夫を盛り込み、「一人でもできた」という目標を掲げながら、意図的に作業学習に取り組むことができる。 ・（国語・表現） ・教科や発達段階に応じて、指導計画に載せられることが出来る。 ・（国語・表現）	・道具の準備が必要に応じて、指導計画に載せられることが出来る。 ・（国語・表現） ・教科や発達段階に応じて、指導計画に載せられることが出来る。 ・（国語・表現）	
<b>算数の基礎/数と計算（小学部）</b> ・身近にある具象物を用いる。 ・（算数・基礎）	・1人でもできる工夫を盛り込み、「一人でもできた」という目標を掲げながら、意図的に作業学習に取り組むことができる。 ・（算数・基礎）	・作業の準備が必要に応じて、指導計画に載せられることが出来る。 ・（算数・基礎）	
<b>理科・英語（小学部）</b> ・身近な材料や道具を用いる。	・1人でもできる工夫を盛り込み、「一人でもできた」という目標を掲げながら、意図的に作業学習に取り組むことができる。 ・（理科・英語）	・作業の準備が必要に応じて、指導計画に載せられることが出来る。 ・（理科・英語）	
<b>音楽・美術・体育・保健・生活科</b> ・児童生徒一人一人の指導内容・学習指導・手立て・評価	・1人でもできる工夫を盛り込み、「一人でもできた」という目標を掲げながら、意図的に作業学習に取り組むことができる。 ・（音楽・美術・体育・保健・生活科）	・作業の準備が必要に応じて、指導計画に載せられることが出来る。 ・（音楽・美術・体育・保健・生活科）	

合わせた指導におけるKシートの作成例

## 1年半の取組から

これまでの実践を通して、授業づくりのプロセスが変わり、各教科や自立活動の内容の取り扱いが計画的に行われるようになりました。特に、各教科等を合わせた指導においては指導内容の偏りが明らかとなり、質の高い合わせた指導の展開に向けた具体的な年間指導計画の作成が始まりました。

小・中学部に先行して、教育課程の見直しに取り組んでいた高等部においても、生徒の実態に基づく各教科及び自立活動の年間指導計画の在り方、それを基にした授業づくりを進めた結果、実態別のグループ指導の導入など、教育的ニーズの確実な実現に向けた道筋が明らかとなり、取組の充実が図られています。

こうした成果をまとめてみると、当たり前と言えば当たりの成果ばかりが並んでいます。しかし、こうした当たり前のことを積み重ねることができなかった結果、取組前の本校の課題に繋がったという過去があり、次期学習指導要領の方向性が明らかになったこのタイミングで、実践を通してこうした成果を整理できたことは大変大きな意味があると感じています。

次年度に向けては、指導目標の妥当性と適切な評価について、また日々の授業改善を教育課程の改善につなげるPDCAサイクルの具体化など、公開研究会の参加者や研究助言者の皆様からいただいた指導・助言を踏まえ、研究を推進していきたいと考えています。

< 菊池支援学校は来年度、創立50周年を迎えます >

創立50周年記念式典 ～「感動の教育」未来を拓く50年！～

平成29年10月28日（土）10：00～ 御代志市民センター講堂

